

バッグからスマートフォンを取り出す。会社の入っているビルは見えているがやる気がどこかへ行ってしまった。体調不良で休暇を取る旨を伝えるメッセージを送信。コーヒーを一口。

「なら、今日はどないしましよ？」  
本丸行かはある？ と優しく微笑む付喪神様に意地悪だらうかと思ひながら口を開く。  
「連れてって。どこか、遠いところ」

一瞬目を見開いて驚いたようだった明石は、すぐにはなんなりとした笑みを浮かべる。  
「自分の好きにしてもええってことかな？」  
おいで、と明石は左手で上着をめくり、そこに飛び込む場所を作る。ためらいなんてなかった。なんだかもう疲れ果てていた。  
「自分とふたりきりの場所に連れてってあげますからなあ」

ざあつと終わったはずの桜吹雪が舞い、もしかして選択は間違いだったかと恐ろしくなるが遅い。その場に残されたのは桜の花びら、はらはらり。  
「あんたはほんとやったらミスタイク犯す言うんも悪くありまへんなあ」  
柔らかないのに頭を支配した声で知る。もう、戻れない。

《了》



こんにちは、佐藤こおりと言います。  
明石国行に若干狂っている審神者2年生です。先日のドロップ2倍キャンペーンで乱舞5を達成いたしました！  
やっただ！  
ゲームの明石さんも刀ミュの明石さんも好きなんですが、刀ミュの定番曲「mistake」は神隠しの曲なのでは？と聞いて思わず書いてしまっただ話でした。初稿はべった一にありますが。  
Twitterのフォローはお気になさらず。夢も創作も腐もごちゃまぜに取り扱っているアカウントですので、たぶん近寄らないほうがいいです……。



上のQRコードは匿名で感想が送れるアソケートプラットフォームです。もしよろしければ感想をください。元氣が出ます。

発行  
2021.05.02  
佐藤こおり  
@ice18g

### 明石国行×女審神者

## 時の狭間へ神隠し

佐藤こおり

朝から電車は遅れるし、コーヒートレーンも例を見ない行列だった。ちらちらと腕時計に目をやりながら会社への道を急ぐ。現世での通勤ルーチンが崩れまくってすでに徒労感、ぐったりだ。  
「そんなせかせかせんと、もう午前休にしてたらよろしいやん」

審神者並の霊力を持つ者には見えないはずだが私は近侍を連れて通勤している。この刃、だから私には近侍を任せればとんでもなく面倒が見がいい。そして仕事を任せればとんでもなく要領がいい。お守りのような存在だ。

おそろくはこの近侍・明石国行の言うとおり午前休、もしくは思い切って休暇にしたほうがいいんだらう。こんな不調ではどんなミスをやらかすかわかったものではないし、幸い急ぎの仕事もない、はず。はあ、と大きくため息をつく。

「明石市には東経一三五度線も通っているのにね」  
「そないなもん、人が後から決めただけでやん」